



概要

JICA 緒方研究所レポート

今日の人間の安全保障

Human Security Today

No.2 March 2024

複合危機下の政治社会と人間の安全保障

[付録] 人間の安全保障とは何か

- ◆ 国際的な共通理解からみる人間の安全保障の価値、戦略、原則
- ◆ 国連における人間の安全保障の展開
 - ◆ 人間の安全保障に関連する概念
 - ◆ 日本と人間の安全保障

「今日の人間の安全保障」第2号について

JICA 緒方研究所は、時代の変化を踏まえた人間の安全保障の今日的意義を世界に発信することを目的とし、フラグシップ・レポート「今日の人間の安全保障」を定期刊行している。

- ▶ 創刊号は「人間の安全保障を再考する」をテーマに2022年3月に刊行した。
- ▶ 第2号では、不確実性が増す時代において、「複合危機下の政治社会と人間の安全保障」を特集テーマに、**インフレと債務危機、栄養問題、紛争地域の自然災害、グローバル・ガバナンス**の課題など、連鎖的で複合的な脅威がもたらす問題を多様な切り口から分析・研究している。
- ▶ 複合的な脅威に対し、人々に安全を保障するアクターは、**相対的な自律性を維持しながらも、複合的に柔軟に変化していく必要がある。**
- ▶ 人間の安全保障の理論と実践は、**連帯を育み共創を促し、人々の命・暮らし・尊厳を守ることに貢献する。**今日の時代において、その重要性はますます高まっている。



コアメッセージ

不確実な時代における人間の安全保障

—多様な危機が複雑に絡み合うなか、人々の命、暮らし、尊厳を守るには?—

人間の安全保障の概念が生まれてから今日に至るまで、世界の人々を取り巻く脅威は様相を変えている。気候変動、武力紛争、パンデミック、自然災害、経済危機などの脅威が複雑に絡み合い、より深刻な危機を引き起こしている。たとえ地球の反対側で生じた問題であっても、私たち一人ひとりの暮らしに大きな影響を与えるようになっている。

これらの世界の問題を正しく捉え、適切に対応していくには、人間の安全保障の視座が有効ではないか。本レポートでは、時代の変化に応じて人間の安全保障をどう理解すべきか、またその適切な実践のためのアプローチとは何かという問いについて探求していきたい。

「今日の人間の安全保障」第2号の目次

巻頭言 JICA 緒方研究所レポート「今日の人間の安全保障」第2号の発刊にあたって
国際協力機構（JICA） 理事長 田中明彦

レポートの概要 複合危機下の政治社会と人間の安全保障を考える
JICA 緒方貞子平和開発研究所 研究所長 峯陽一

第1部 特集 複合危機下の政治社会と人間の安全保障

- 【対談】 複合危機下の人間の安全保障を読み解く
シンガポール 南洋理工大学 教授 メリー・カバレロ = アンソニー
国際協力機構（JICA） 理事長 田中明彦
JICA 緒方貞子平和開発研究所 研究所長 峯陽一
- 【論考】 コロナショック以降の途上国経済——インフレーション、債務危機の考察と今後の展望
JICA 緒方貞子平和開発研究所 上席研究員 原田徹也
- 【論考】 複雑化する栄養問題へのマルチセクター／マルチステークホルダー・アプローチの実践による対応
JICA 緒方貞子平和開発研究所 客員研究員 野村真利香・主席研究員 牧本小枝
- 【論考】 紛争中の自然災害——シリアにおける複合危機の発生から人間の安全保障への示唆
JICA 緒方貞子平和開発研究所 専任研究員 武藤亜子
- 【論考】 ポスト・ポスト冷戦時代の人間の安全保障
横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 国際社会科学部門 教授 志賀裕朗
- 【エッセイ】 人間の安全保障とガバナンス——中国の場合
東京大学大学院 法学政治学研究科 教授 高原明生
- 【コラム】 人間の安全保障の「人間」とは？
東京大学 東洋文化研究所 新世代アジア研究部門 教授 佐藤仁

第2部 人間の安全保障をめぐる諸課題

- 【論考】 人びとの視点からアフリカの人間の安全保障を捉え直す——アフリカ5カ国における意識調査結果から
JICA 緒方貞子平和開発研究所 主任研究員 花谷厚
- 【論考】 人間の安全保障とジェンダー——難民のジェンダーに基づく暴力（GBV）研究からの示唆
JICA 緒方貞子平和開発研究所 非常勤研究助手 杉谷幸太・研究員 竹内海人・専任研究員 武藤亜子
- 【コラム】 文献案内——人間の安全保障をもっと知りたい方へ
JICA 緒方貞子平和開発研究所 研究所長 峯陽一

第3部 研究の現場から：JICA 緒方研究所 研究領域紹介

政治・ガバナンス	研究員 荒井真希子
経済成長と貧困削減	主任研究員 石塚史暁
人間開発	研究員 井田暁子・リサーチ・オフィサー 日上奈央子
平和構築と人道支援	リサーチ・オフィサー 槌谷恒孝
地球環境	上席研究員 佐藤一郎・研究員 野口扶美子・研究員 遠藤慶
開発協力戦略	上席研究員 藤家斉

※各タイトルからダウンロード可能

Q1 Security from what?

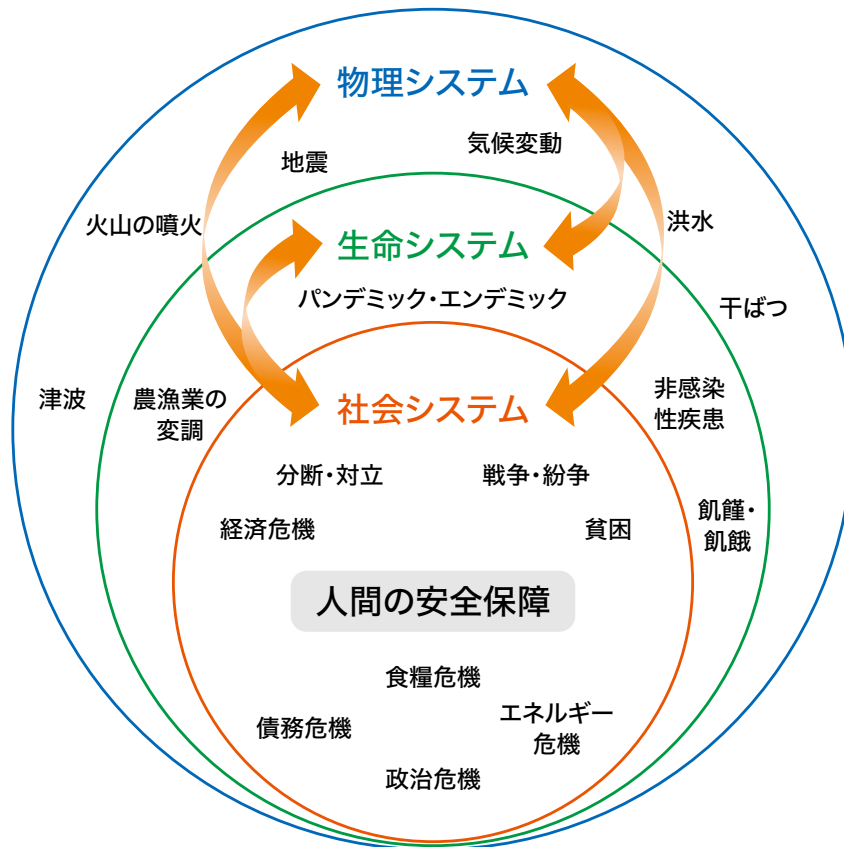
何から安全を守るのか

危機の複合性

- ▶ **リスクはつながっている。**人間の社会経済的な活動が自然のシステムを加速度的に改変するにつれて、私たちをとりまく脅威は深刻化し、かつ複合的になってきている。グローバル化の時代、世界が隅々まで結びつくことで、近隣のみならず地球の反対側で起きる出来事までが、私たち一人ひとりの暮らしに大きな影響を与えるようになってきた。そして、そのような出来事を私たちは一瞬で知ることができるようになった。
- ▶ JICAの田中明彦理事長は、「人間の安全保障の理論に向けて(“Toward a Theory of Human Security”, JICA-RI Working Paper, No. 91, 2015)」という論考において、私たちをとりまく脅威の階層性と複合性を、**物理システム**(地

震や火山の噴火、洪水や干ばつ)、**生命システム**(感染症や農漁業の変調)、**社会システム**(紛争や経済社会の危機)という3つのシステムから論じている。**これらの三層に由来する脅威は互いに絡み合っている。**たとえば、気候変動といった物理システムの大規模な変調をもたらしたのは、社会システムの動き、すなわち人間の活動である。

- ▶ 複合的な脅威について研究を進めようとするれば、**物理学、化学、工学、生物学、医学、農学、社会科学・人文学などのすべての学問分野が協力する必要がある。**異分野の緊密な協力が要請されるのは、多彩な領域で活動を展開しているJICAなどの開発協力機関も同じである。**人間の安全保障は、研究や実務の諸分野の「縦割り」を超えて価値と知識の「共創」を目指していくツールになりうる。**



物理システム、生命システム、社会システムの観点から危機の複合性を示した図

Q2 Security of what?

何の安全を守るのか

一人ひとりを大切に

- ▶ 第二次世界大戦以降、達成のペースはまだら模様であるにしても、世界の各地で人びとは人間開発の成果を享受してきた。しかし、私たちが一度手に入れた選択権を明日も行使できるとは限らない。今の相対的な安全にもかかわらず、**私たちは未来に強い不安を感じている。**
- ▶ 国家の安全保障は、外部の国家や人間集団の行為に由来する脅威から国家の完結性を守るアジェンダである。それに対して人間の安全保障は、**多様な脅威から人間の安全を守るアジェンダである。**人間の安全保障が「何の安全」を守るかと問うなら、それは**実存する一人ひとりの人間の安全を守るものだ、**というのが答えだ。
- ▶ 安全の指示対象として人間一人ひとりを中心に据えることは、**人間が自然を支配することとは異なる。**人間の活動により、人間と自然の関係が、そして人間の社会が変調をきたし、人類の生存そのものが危機に瀕するようになっていく。人間の安全保障は**人類の存続の危機を認識し、一人ひとりの人間の命、暮らし、尊厳、そして傷つきやすさ (vulnerability) から出発することで、安全の概念を根底から組み替えようとする試みである。**

Q3 Who provide security?

誰が安全を守るのか

政府の役割を再考する

- ▶ 多様な脅威が結びついているのだから、それらに対処するには、様々なアクターが力をあわせる必要がある。**政府に加えて、民間企業、地方自治体、市民社会、大学や研究機関などが協力すること、組織内部の部門が協力すること、そして国と国の協力、国際機関との協力を組織することが不可欠である。**
- ▶ 人間の安全保障において、国家は重要な役割を果たす。しなやかで開放的で、国民からも隣国からも信頼される国家

は本当の意味で強い国家であり、長続きするし、一人ひとりの人間の安全保障にも貢献するだろう。国が人を守ること、人を守れる国を築くことは平和の基礎であり、そのような国々が協調することが、今日の複合危機への対応に欠かせない。

Q4 Who provide security, and how?

誰がどのように安全を守るのか

緒方セン委員会の視点

- ▶ 国が人を守ることが大切であるが、人びとに安全を保障するのは国家だけではないことを再確認する必要がある。2003年の人間の安全保障委員会（緒方セン委員会）報告書において、**緒方貞子は人道援助の観点から、人々の命が保護される契機に着目し、アマルティア・センは開発の観点から、人びとの暮らしが守られ、自己決定の空間が広がる契機に着目した。**政治と経済にまたがる**緒方セン委員会のアプローチを、複合危機の文脈でさらに深化させていくことが求められる。**

人間の安全保障のフロンティア

共創と連帯の作法

- ▶ 人間の安全保障の政策的な応用のひとつに、**指標化の試みがある。**安全と不安に関する**人びとの主観的認知と、それに影響を与える客観的要因**を定量的に分析し、人間の安全保障の政策ツールを練り上げることを目指している。
- ▶ 人間の安全保障の実践の領域に踏み込もうとすると、**共創と連帯が重要である。**日本では「縦割りを超える」とか、「タコ壺から出る」という言い方をしますが、英語では「サイロ（飼料・穀物の貯蔵庫）から出る」という言い方をします。「危機の複合性」に対応するには、**研究と実務の両方において、専門の強みを生かしつつも、自らの担当領域から外に出て周囲を見回し、他分野と対話し、共創の空間に参入していくことが求められる。**

第1部 特集「複合危機下の政治社会と人間の安全保障」

コロナショック以降の途上国経済

インフレーション、債務危機の考察と今後の展望

人間の安全保障を定着させるには、政治に加えて、経済のダウンサイド・リスクにも目を向ける必要がある。世界が直面する複合危機には、リスクの連鎖反応や相互影響、不確実性、政策的ジレンマといった特徴がある。途上国とりわけ低所得国は、食糧価格の高騰によるインフレに悩まされている。さらに近年、対外公的債務の貸し手の構成が変化したこともあり、財政的に脆弱な国々の債務返済が難しくなっている。

途上国は健全な経済運営を行い、債務リスクの管理能力を向上させながら、質の高い投資を通じて成長の機会を模索することが必要である。国際社会もまた、グローバルな経済ショックに協調して立ち向かう枠組みをさらに深化させなければならない。

複雑化する栄養問題へのマルチセクター／マルチステークホルダー・アプローチの実践による対応

人びとの栄養状態は、気候変動、新興感染症、紛争といった複合危機に加え、人口構造や疾病構造の変化からも影響を受け、複雑に変化する。気候変動とともに食料生産が不安定化し、人びとの栄養状況が悪化すると懸念されている。集団の栄養状態が低栄養から過栄養に変化する「栄養転換」も、途上国を含む各地で広がっている。

人間の安全保障の視点は、栄養協力においても求められる。個人や集団の行動変容には、エンパワメントに加えて、保護の観点から健康的な食環境を整備することが不可欠である。そして、課題の複雑性、ローカル性、多様性に対応するために、マルチセクター、マルチステークホルダーの実践に取り組むことが求められている。

紛争中の自然災害

シリアにおける複合危機の発生から人間の安全保障への示唆

武力紛争が続いている間に、突発的な大規模自然災害が発生する事態が起こりうる。そのような複合危機の事例として、シリア紛争中に勃発した2023年のトルコ・シリア地震を取り上げる。

人間の安全保障の実践には保護とエンパワメントがあるが、緊急事態に際しては、命の保護、暮らしの保護、尊厳の保護を実践する必要がある。大規模な自然災害が起きると、国際社会は復興に協力しようとするが、紛争中の場合、復興は紛争当事者や国際関係に左右される。シリア紛争では国際関係の影響もあった。そうした複雑な状況のもとで人間の安全保障を推進するには、シリアの人びと自身のエンパワメント、欧米諸国の制裁の一時的緩和、シリアとアラブ連盟加盟国との関係改善が重要である。

ポスト・ポスト冷戦時代の人間の安全保障

ポスト冷戦時代、一人ひとりの人間の安全を重視する人間の安全保障という考え方が登場した。しかし、近年の大国間対立の激化に伴い、国家を単位とする軍事力中心の安全保障が再び重視されてきている。国家の安全保障と人間の安全保障は相互補完的だが、前者が確保されたからといって後者が実現しているとは限らないし、前者の名のもとに後者が犠牲になる危険もある。

人間の安全保障の実現には、経済のグローバル化により縮小した国家の公共財提供機能を回復するとともに、合意形成の営みとしての「政治」を取り戻すことが不可欠である。人びとの尊厳を取り戻し、分断を克服し、社会的結束を回復することで、人間と国家の安全保障の両方を達成できるだろう。

第2部 人間の安全保障をめぐる諸課題

人びとの視点からアフリカの人間の安全保障を捉え直す

アフリカ5カ国における意識調査結果から

人間の安全保障は、外交、軍事、開発、人道といった分野の人びとが協働するための共通の理念を提供してきたが、分析概念としては不十分であるという批判が加えられてきた。将来の状況に対する人びとの不安感を調べることで、この概念の有用性を検討してみる。

アフリカ5カ国の意識調査結果に基づく人間の安全保障スコアを用いて分析した結果、人間の安全保障の考え方は、第1に社会内脆弱層とその不安の具体的内容の把握、第2に尊厳を中心とする人間の安全保障を構成する中心的価値の可視化、第3に将来リスクに関する主観的情報の把握といった観点から付加価値を持つことが分かった。さらに、リスク評価の枠組みを援用することで、人間の安全保障を政策的に応用できることが明らかになった。

人間の安全保障とジェンダー

難民のジェンダーに基づく暴力(GBV)研究からの示唆

人間の安全保障の言説における「人間」をどう捉えるべきかについて、ジェンダー研究者から様々な疑問が提示されてきた。ジェンダーに基づく暴力(GBV)という課題をめぐって、人間の安全保障の視点からどのような示唆が得られるのかを検証しよう。私たちはまずジェンダー研究者による人間の安全保障批判を紹介し、そこから見えてくる様々な意見の相違点と共通性を明らかにする。

JICA 緒方研究所は難民コミュニティにおけるGBVを対象とする研究プロジェクトを実施してきた。人びと中心、個人とコミュニティ、尊厳といった人間の安全保障の視点や政策的フレームワークを取り上げて、それらがGBVというジェンダー課題に対してどのような示唆をもつのかを考察する。

付録 人間の安全保障とは何か

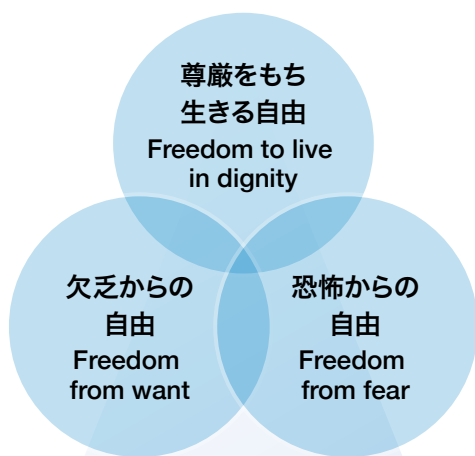
国際的な共通理解からみる人間の安全保障の価値、戦略、原則

【定義】 人間の安全保障とは、私たちが直面する複合危機に対処しながら、**すべての人々が恐怖と欠乏から自由になり、尊厳をもって生きられる権利が保障された社会をつくらうとする理論と実践**である。

価値

Values

人間の安全保障を構成する価値の領域

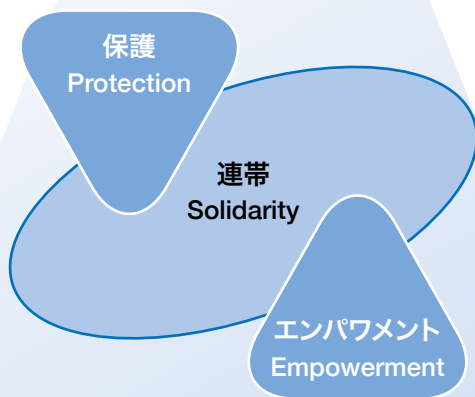


- ▶ 「人間の安全保障」は、人びとが恐怖と欠乏により命と暮らしを脅かされることなく、尊厳をもって生きられる社会を目指す。
- ▶ 人間の命、暮らし、尊厳を損なう脅威に着目し、人びとを守るために脅威に対応する。
- ▶ 今日の世界が直面する危機は、様々な脅威が同時に発生するだけでなく、それらが互いに連鎖し、複合的な危機として、より深刻な影響を人々に及ぼすという特徴がある。

戦略

Strategies

人間の安全保障の実現のために組み合わせる戦略



- ▶ 上からの保護は、政府や国際機関、NGOなどのステークホルダーが、個々の力では対処しきれない深刻かつ広範な脅威から人々を守ること。
- ▶ 下からのエンパワメントは、影響を緩和・対応・予防するために、一人ひとりが本来持っている力を発揮し、人びとが自発的・集合的に選択する力を強めること。
- ▶ 連帯は、社会、世代の間、人と地球との間の相互依存関係を認識し、現在および将来の課題を乗り越えるために、多様なアクターが水平的に協力すること。
- ▶ 保護、エンパワメント、連帯の戦略に基づく取り組みは、人びとのレジリエンスを強化することにつながる。

原則

Principles

人間の安全保障の取り組みにおいて重視すべき視点



- ▶ 人びと中心は、脆弱な立場に置かれた人々の視点を大切にすること。
- ▶ 包括性は、人々の視点から多様な問題の相互関係をとらえ、専門分野の違いを超えて包括的に対処すること。
- ▶ 文脈重視は、各地域の固有の状況や文化を尊重すること。
- ▶ 予防指向は、脅威により人々の状況が悪化する危険性（ダウンスайд・リスク）を直視し、未来の危険に対応しようとする。

出典：2024年人間の安全保障に関する国連事務総長報告（A/78/665）及び国連人間の安全保障基金が2016年に発行したHuman Security Handbookを基に作成。

国連における人間の安全保障の展開

1994年

[英語リンク](#) [日本語リンク](#)

UNDP 人間開発報告書

人間の安全保障の概念をはじめて公的に取り上げ、飢餓・疾病・抑圧等の恒常的な脅威からの安全の確保と、日常生活が突然断絶されることからの保護を掲げ、人々の安全を重視する視点を提示。

1999年

[英語リンク](#) [日本語リンク](#)

国連に「人間の安全保障基金」設立

2003年

[英語リンク](#) [日本語リンク](#)

人間の安全保障委員会 最終報告書

「Human Security Now」(緒方・セン報告書)

2001年に国連に設置された同委員会の最終報告として、人間の安全保障を、恐怖からの自由、欠乏からの自由、そして尊厳をもち生きる自由と定義。国家、国際社会等によるトップダウン的な保護と人々や市民社会等によるボトムアップ的なエンパワメントという相互補完的な戦略を組み合わせる重要性を強調。

2005年

[英語リンク](#) [日本語リンク](#)

世界サミット成果文書の国連総会での採択 (A/RES/60/1)

パラグラフ143において、人間の安全保障が言及され、国連総会において、人間の安全保障の概念をさらに議論することを明記。

2010年

[英語リンク](#) [日本語リンク](#)

人間の安全保障に関する国連事務総長報告 (A/64/701)

人間の安全保障概念は実践的な概念であるとし、1)人びと中心、2)包括性、3)文脈重視および4)予防指向の4つの原則を提示。

2012年

[英語リンク](#) [日本語リンク](#)

人間の安全保障に関する国連総会決議 (A/RES/66/290)

「人々の生存、生計及び尊厳に対する広範かつ分野横断的な課題を特定し対処することを補助するアプローチ」として、人

間の安全保障の共通理解についての国際的な合意がなされた。その中には、「保護する責任 (R2P)」とは異なるものであり、武力や強制措置を求めず、国のオーナーシップを尊重することが含まれた。

2013年

[英語リンク](#)

国連総会決議 (A/RES/66/290) フォローアップに関する国連事務総長報告 (A/68/685)

人間の安全保障を地域、国家、そしてサブナショナルレベルで適用する重要性を強調。また、ポスト2015年のグローバルアジェンダに人間の安全保障を包括的フレームワークとして盛り込むことを提言。

2015年

[英語リンク](#) [日本語リンク](#)

持続可能な開発目標 (SDGs)

人間の安全保障の「人々を中心に置く」という原則が、「誰一人取り残さない」という言葉と共に包摂性の観点から盛り込まれた。

2022年

[英語リンク](#) [日本語リンク](#)

UNDP 特別報告書「人新世の脅威と人間の安全保障」

人新世の時代における人間の安全保障の戦略として、保護とエンパワメントに加えて「連帯」を提示。3つの戦略のかけあわせにより、「人間の行為主体性 (agency)」を高める重要性を示す。

2024年

[英語リンク](#) [日本語リンク](#)

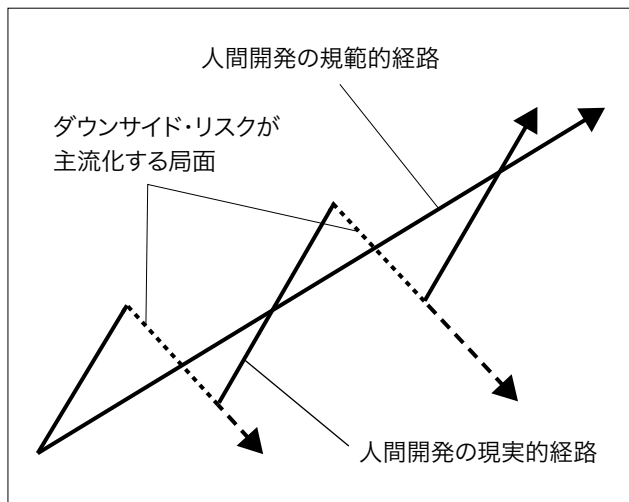
人間の安全保障に関する国連事務総長報告 (A/78/665)

今日の複合危機下の世界を念頭にSDGs達成を加速するツールとして、人間の安全保障の重要性を強調。保護とエンパワメントに加え、「連帯」が、人間の安全保障達成のための戦略の一つとして位置づけられた。また、人間の安全保障に関わる世界各地の実践を紹介している。

人間の安全保障に関連する概念

人間開発 Human Development

一人ひとりの選択の幅を広げることで、皆が価値ある人生を送れるようになるプロセス。1990年のUNDP『人間開発報告書』で提唱された。人間開発は進歩と増進を主眼とするが、人間の安全保障は、状況が悪化する危険性(ダウンサイド・リスク)が主流化する局面に対処し、社会を再び人間開発の経路に乗せていこうとする努力だと考えられる(図を参照)。



人権 Human Rights

人として生まれた者には、一連の基本的自由としての人権が認められ、促進されなければならない。ただし、特定の時点の特定の社会がどのような自由を基本的人権として保護し、推進すべきかという問題は残る。人間の安全保障は、人間が極度の不安全に向き合う具体的状況を示すことで、基本的人権として認められるべき自由が何かを指し示すことができる。

参考文献：

Ogata, S. 2003. "Human Security and State Security," Box 1.2, p. 5 in *Human Security Now* (Report of the Commission on Human Security). New York: United Nations.

Sen, A. K. 2003. "Development, Rights and Human Security," Box 1.3, pp. 8-9 in *Human Security Now* (Report of the Commission on Human Security). New York: United Nations.

人間の尊厳 Human Dignity

一人ひとりの人間に尊く厳かで侵しがたい価値が内在しているという考え方。自己と他者のかけがえのない価値、すなわち尊厳を尊重する態度が万人に求められている。国連憲章や世界人権宣言にも盛り込まれており、「誰も取り残されない」社会をつくるというSDGsの理念の基礎でもある。人間の安全保障が求める三つの自由の一角を占める。

国家の安全保障 State Security

国家および国民の安全を保障すること。各国の政策だけでなく、諸国の同盟関係、国際機構の集団安全保障などで確保される。第二次世界大戦後の植民地の独立により、主権国家の安全保障の枠組みが地球規模に広がった。この枠組みを補完するものとして人間の安全保障が生まれた。

社会保障 Social Security

社会が個々の住民を病、失業、事故などの個別的なリスクから守り、最低限の生活を保障する制度。政府が責任をもつが、相互扶助的な側面もある。日常生活のリスクを想定しているが、大規模な災害や疾病、紛争時にも、人間の安全保障を補完する役割を担う。

保護する責任 Responsibility to Protect (R2P)

R2Pとは、ジェノサイド、戦争犯罪、民族浄化、人道に対する罪を予防するドクトリンである。R2Pの原則と実践は、人間の安全保障とは明確に異なる。人間の安全保障は国家のオーナーシップに基づくものであり、また決して武力行使を支持しないものとして、国連総会決議(A/RES/66/290)で認識されている。

日本と人間の安全保障

日本は人間の安全保障を外交の柱の1つに掲げ、国際社会において人間の安全保障を推進するための様々な取り組みを行っている。

1998年

[日本語リンク](#)

小渕首相が政策演説において(「アジアの明日を創る知的対話」)、人間の安全保障を日本外交の柱として位置付け、人間の安全保障基金設立を表明。

2000年

[日本語リンク](#)

国連ミレニアム総会において森首相が人間の安全保障を日本の外交の柱に据えることを宣言し、人間の安全保障委員会の設置を呼びかけ。

2003年

[日本語リンク](#)

人間の安全保障委員会が最終報告書を発表。政府開発援助大綱に人間の安全保障の視点が基本方針として明記される。

2012年

[日本語リンク](#)

日本政府が国連総会で人間の安全保障の定義に関する決議を共同提案。

2015年

[日本語リンク](#)

政府開発援助大綱から開発協力大綱への改訂に伴い、人間の安全保障が「開発協力の指導理念」として明確に位置づけられる。

2022年

[日本語リンク](#)

国連開発計画が「人間の安全保障特別報告書」を発表(日本政府が支援)。

2023年

[日本語リンク](#)

開発協力大綱改定に際し、「我が国は、引き続き、人間の安全保障を我が国のあらゆる開発協力に通底する指導理念に位置付ける」と明記。

JICAと人間の安全保障

JICAは、人間の安全保障を組織のミッションのひとつに掲げる日本の開発協力機関である。2003年に、人間の安全保障委員会の共同議長だった緒方貞子氏がJICA理事長に着任して以来、組織全体で人間の安全保障に資する開発協力を実践している。

緒方貞子氏について

2003年10月から2012年3月まで初代理事長としてJICAを率いた緒方貞子氏は、現場のニーズを捉えて事業を行う「現場主義」を重視し、「人間の安全保障」の実践に尽力した。また、緒方氏の主導で2008年に誕生した「JICA研究所」は、2020年、同氏による設立趣旨を継承、発展させ、世界の平和と開発への知的貢献を強化するため、「JICA緒方貞子平和開発研究所(JICA緒方研究所)」に名称を変更し、人間の安全保障の実現に貢献する多様な研究、取り組みを実施している。

JICA 緒方貞子平和開発研究所

平和と開発のための実践的知識の共創をビジョンに掲げ、開発途上国が直面する課題について政策指向の研究を行い、世界の平和と開発への知的貢献を目指している。

3つの基本方針

- 国際的な学術水準の研究を行い、積極的に発信する。
- 現場で得られた知見を分析・総合し、事業にフィードバックする。
- 人間の安全保障の実現に貢献する

▶ 人間の安全保障に関する研究、取り組みについてさらに知りたい方はこちら →



JICA 緒方研究所レポート「今日の人間の安全保障」



創刊号

「人間の安全保障を再考する」

人間の安全保障の今日的意義と開発協力への示唆を示す論考、人間の安全保障研究の歩みと展望を述べる論考に加え、有識者による対談記事を収録。また、「トピックス」として、新型コロナ・パンデミックと人間の安全保障をテーマに、保健セクターへの影響、アフリカにおける人間の安全保障をめぐる理解と実践の変化、コロナ禍での移民送金等、様々な視点から議論。加えて、JICA 緒方研究所の各研究領域における研究活動を人間の安全保障の切り口から紹介。



第2号

「複合危機下の政治社会と人間の安全保障」

インフレと債務危機、栄養問題、紛争中の自然災害、グローバル・ガバナンスの課題など、連鎖的で複合的な脅威に関する論考やエッセイ、対談記事を収録。また、特集テーマ外の論考として、アフリカにおける人間の安全保障や、ジェンダーに基づく暴力について論じている。さらに、人間の安全保障にまつわるコラムに加え、創刊号に引き続き JICA 緒方研究所の各研究領域の研究活動を人間の安全保障の切り口から紹介。



独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 緒方貞子平和開発研究所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町 10-5

[Web] https://www.jica.go.jp/jica_ri/index.html

[Mail Magazine] https://www.jica.go.jp/jica_ri/news/mailmagazine/index.html

[Facebook] <https://www.facebook.com/JICARIJ>

[Videos] https://www.jica.go.jp/jica_ri/news/movie/index.html